

菊地三郎「古いスクラップ・ブックの思い出」  
—「橘樸を考える会」での講演メモ—  
【サマリー】

木村 実季

橘樸(たちばなしらき)は戦前・戦中のジャーナリスト、中国研究者として著名な人物であるが、本稿は、その橘樸を研究する人々が集った「橘樸を考える会」で1979年に菊地三郎先生(中日文化研究所の創立者)が行った講演内容を紹介するものである。

この講演からは、(A)上海で過ごした菊地先生の青春時代の様子、(B)菊地先生独自の「孫文の“発財革命”」論ならびに「国共合作＝民族と階級の統一」論、(C)菊地先生による「西本白川・橘樸」比較論などが読み取れるはずである。